

自然体験イベント事故情報

事故名	首と頭に強い衝撃を受ける	被災者	年齢 50歳台	性別 男
事故状況	発生日時 2020年2月23日(日) 14時頃			
	発生場所 公園・ <u>里山</u> ・海・川・溪谷・その他()			
	<p>事故状況 (何をして、どのように、どうなった)</p> <p>間伐実習を班別を実施中、掛かり木になってしまった伐木をロープで引き倒そうと、皆で綱を引いていた。かけ声でタイミングを計ってはいたがリード役を決めないうまま各自で合わせていたため、その何回目かで本人が全員の引くタイミングとズレ、急激に引っ張られる形となり、頭が振られて首に強い力が掛かり強い衝撃を受けた。(ゴキッと音。)</p>			
事故処置	<p>誰が、どのように処置</p> <p>首に違和感を覚えながら帰宅。事故の翌朝から頭痛。市販の頭痛薬や首への消炎剤でしのいだ。一週間近く経っても解消しないので、2月28日(金)最寄りの脳神経外科で診察を受けた。レントゲン、MRI検査を行ったが、原因が脳動脈に強い圧がかかったことによる可能性があるため、大阪医大での診察を勧められ、3月10日(火)に精密検査を受診し、椎骨(ついこつ)動脈の解離と診断された。事故後の頭痛が治まってきていることから、自然治癒の方向にある可能性が高く、経過観察することとなった。(3か月後に再診でMRI)</p>			
	<p>ケガの部位・症状</p> <p>けい骨動脈の解離と診断された。頸部左側 頭痛</p>			
	<p>推定原因と再発防止策は (分かる範囲で記入下さい)</p> <p><被災者の再発防止策></p> <p>① 伐木の選定方法の見直し：女性・初心者の多いメンバーでの演習なので、場所(傾斜、足場の状態)や樹高などできるだけ平易な条件の木を選定する。</p> <p>② 想定外作業になった場合のルール設定：講習で「かかり木にならないように倒木方向を設定すること」と指導を受けていながらなってしまう。流れで引き倒しも講座メンバーが加わったまま作業をすすめたが、想定外の状態となった時点で、体制や方法などを協議するべきだった。</p> <p><受け入れグループの再発防止策></p> <p>③ 次頁：「伐木方法・かかり木の処理に関して(今回の事故を踏まえて)」を参照。</p> <p><主催者の再発防止策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかり木の処理は、予見しがたい場合があり危険を招くことが少なくない。 ・講座では、かかり木とならないように、被災者および受け入れグループの再発防止策を参照に事前の準備と当日の実習内容を見直しする。 ・かかり木となった場合、受講生は初心者が多いため見学し携わらない。 ・かかり木の処理は、経験者が前項③を参照に行く。 ・講座終了時にヒヤリハットの聞き取りを必ず行う。 			
総務部会コメント	<p>○再発防止策は里山保全グループ・経験者の意見を広く聞くこと。</p> <p>○実習時のリーダーは、当該実習に長けた人とすること。</p>			

伐木方法・かかり木の処理に関して（今回の事故を踏まえて）

伐木の方法について

1. かかり木にならないように準備する（倒木方向を十分開けておく）。
 - ①目的の樹木の周辺および倒木方向の障害物（小低木、草、小石など）をとりぞく。
 - ②倒木方向にかかりそうな別の樹木がある場合には、先にその樹木を伐採する。その樹木が残すべき樹木である場合には別の方向を検討する。
 - ③目的の木（伐採する木）にロープをかけ、倒木方向より左右どちらかに少し離れた樹木に滑車をつけ引く方向を変える（この時、伐倒木に対して十分安全な方向と距離をとる。また、ロープを引く人の足場が安全なことを確認する）。
 - ④倒木方向に直角に受け口を作る。
 - ⑤倒木方向に人がいないことを確認し、周囲の人に合図して、追い口を受け口に平行に切り始める。
 - ③倒れ始める少し前に追い口を切るのを止め、ロープで引いて倒す。
2. かかり木になってしまった場合
 - ①ロープで数回引いてかかっている枝から外して倒す。
 - ②数回引いても外れない場合は、外す方向の逆側のつるを少し切ってロープを数回引いて外す。
 - ③それでも外れない場合はプラロックなどを用いてロープを引いて外す。
 - ④それでも外れない場合はつるを切り落としてフェリングバーなどで木を回転させて外す。
（②、③、④はその時の状況に合わせて適宜順番を変えたり組み合わせたりする）
 - ⑤かかっている木の元玉切り（ダルマ落とし）はしない（大変危険）。

今回の事故に関して

*倒す木の近くでの作業はできるだけ避けたほうが安全という考え（チェーンソー作業者の我々も素人であるため）で、これまでではできるだけロープで倒そうとしてきたのですが、今回のような想定外の事故が起こったことから、数回引いて倒れない場合はすぐに「2.の②、③、④」に移行するようにしようと申し合わせました。ただロープを引く人数を3人と決めるのではなく、大人数で引くことはしない程度でいいと考えています。

*最も大切なのは「1.」を徹底することだと思います。伐倒方向にかかるかもしれない木がある場合、面倒でもその木を先に切る、その木が残したい木であるなら切ってもよい木がある方向に伐倒方向を変えるなどして、かかり木を回避することを一番に考えることが大切だと思います。これまで時間の短縮のため、かかるかもしれないと思いながら（かかったらその時対処を考えようと思い）切り始めることが多くあったと反省しています。

*今後の講座においては、半日という時間の中では、まずかかり木になることはないように、必要であれば下見の時にあらかじめ障害となる木を伐採して、安全に倒せるように準備しておくことが良いのではないかと思います。

*また、短時間の実習ですので、受講生の人数、スタッフの人数にかかわらず伐倒木は1本にしたほうが良いかと思います（1本にして枝切り、玉切り、集積までを行う）。

以上、4月5日に開催した当会の世話人会での議論を踏まえて（私の私見も交えながら）まとめました。よろしくお願ひします。

2020. 4. 17

受け入れグループ 代表